

一人ひとりの個性や能力が 存分に発揮できる社会を実現

いかなる条件にも左右されることなく個性や能力を発揮できる環境を用意することで、山梨県全体の可能性を最大化します。県は、子育てや介護、多様な価値観を認め合う共生社会の実現など、社会の基礎条件の充実に惜しみなくお金を使います。



〔共生社会の実現〕

山梨県に多種多様な人材が集い 持続的に成長していくための基礎づくり

多様な生き方を 選択できる社会に

多様な価値観を認め合い、誰もが活躍できる共生社会を実現する。これは、多種多様な人材が集い、持続的に成長していくための基礎です。

中でも、男女の人権が尊重され、個人の意欲と能力に応じて多様な生き方を選択できる男女共同参画社会の実現に向け、今年度は昨年度の約2倍となる予算を確保し、新たな事業を積極的に行います。

特に「若年層への意識啓発」「女性リーダーの育成」「相談機能の強化」の三つに重点的に取り組めます。そのほか、男女共同参画推進センターに専門人材を配置し、活動に取り組む県民や団体を支援していきます。

さらに、スクールカウンセラー・企業などを対象とした研修や、生徒・職場向けにパンフレットを配布して「性の多様性」を尊重できる社会づくりにつなげていきます。

また、県社会福祉協議会が行う地域支え合い活動に助成し、孤立や孤独を防ぎ誰一人取り残さない地域社会の実現に取り組めます。

人と動物との共生をめざす

猫は繁殖力が強いいため、どんどん増えてしまい、致死処分せざるを得ない場合があります。そこで、猫の無秩序な繁殖を抑えるための不妊・去勢手術にかかる費用を市町村に補助する制度を大幅に拡充し、1億円を超える予算を確保しました。

これにより猫の致死処分数を劇的に減らし、人と動物が共生する社会の実現につなげていきます。



去勢手術を受けた印として右耳の一部がカットされた猫

【子育て・教育環境の充実】

新しい姿の待機児童ゼロ、
ヤングケアラー支援、少人数学級の拡大

支援センターの設置で
新しい姿の待機児童ゼロへ

新たに「保育士・保育所支援センター」を設置し、潜在保育士を対象とした研修会や、人材バンクを活用した保育士と保育所とのマッチングなどを行います。これにより年度途中の保育士の確保がしやすくなり、時期を問わず希望する保育所へスムーズに入所できる「新しい姿の待機児童ゼロ」の基盤を整えます。

ヤングケアラーへの支援

家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども「ヤングケアラー」への支援を本格的に始めます。

今年度は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、子どもが学校内で相談できる機会を増やします。

学校外でも相談できる機会をつくるために、会員制交流サイト(SNS)を開いたり、支えとなる人材を育成したりします。また、周囲の理解を深めるため、テレビやインターネットを通じて積極的に啓発活動をしていきます。

25人学級を小2にも導入
いじめ・不登校にも対応

きめ細かく質の高い教育を実現するため、昨年4月、全国に先駆けて公立小学校の1年生に25人学級を導入しました。今年4月からはこれを2年生に拡大します。さらに、少人数教育推進検討委員会が25人学級の効果を検証し、この結果を踏まえ、財源なども考慮しながら、3年生以降への導入を決定します。



子どもの可能性を最大限伸ばす

また、いじめや不登校対策に積極的に取り組めるよう、学校内での相談体制を強化するとともに、総合教育センターに「相談支援センター」を設置し、市町村の適応指導教室のサポートや、長期にわたる不登校などに対応できる体制を拡充します。

【誰もが安心して自分らしく暮らせる社会へ】

介護待機者ゼロ社会の実現や
医療的ケア児への支援体制の整備

施設整備や処遇改善で
介護待機者ゼロに取り組み

県はこれまでに、介護待機者ゼロ社会の実現に向けて特別養護老人ホームなどの拡充を進め、令和5年度末までに新たに437床を整備することとしています。



全ての世代の安心を支えるため介護待機者ゼロをめざす

また、介護現場では慢性的な人材不足が課題となっていることから、介護ロボットやICTの導入を促進するとともに、国の方針を踏まえ、介護事業所が今年2月から9月まで

行う介護職員の賃上げ相当額を助成し、労働環境や処遇の改善をめざしています。

医療的ケア児やその家族を支援

医療的ケア児とは、病気や障害により人工呼吸器の管理やたんの吸引などの医療的ケアが日常的に必要な子どものことです。医療的ケア児やその家族を包括的にサポートするため、今年度新設する支援センターでは、家族からの相談を受け関係機関と調整しながら、必要な医療や障害福祉サービスにつなげます。また、情報交換会の開催や制度の紹介などにより、広く知識や情報が得られる環境づくりも同時に進めます。



医療的ケア児と家族が安心して暮らせる環境を整備